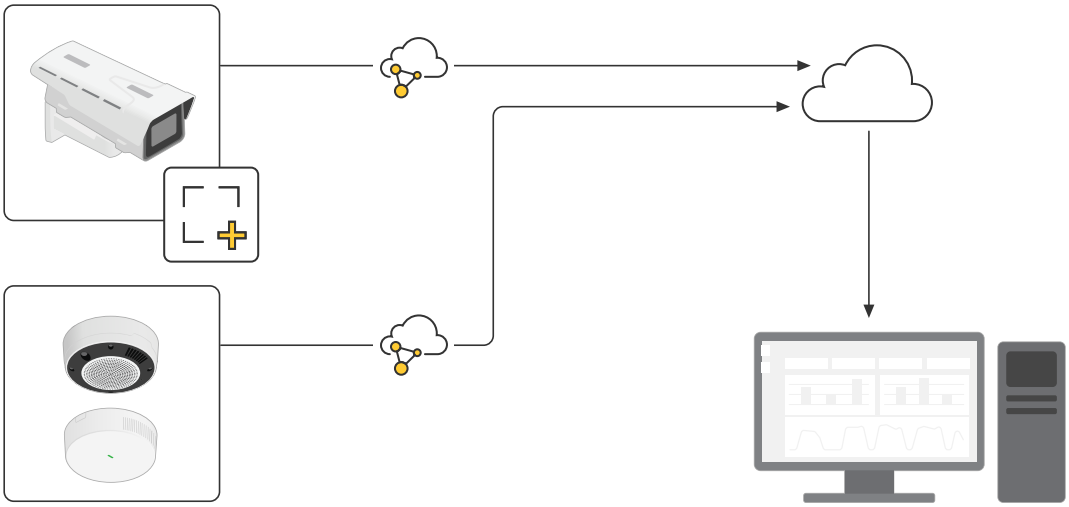
AXIS Data Insights

ユーザーマニュアル

バージョン情報

AXIS Data Insightsは、対応するAxisデバイスおよびアプリケーションからデータを収集し、直感的なダッシュボードやわかりやすい統計データの可視化によって実用的で価値ある情報を提示するアプリケーションです。



Axisのカメラと環境センサーが、周囲の環境からデータを取得します。カメラでは、高度なイメージングとAIによるシーン認識機能がビジュアルデータを強化・解析し、シーン内の物体、属性、および活動に関する構造化されたメタデータを生成します。定義したルール、条件、および閾値に基づいて、AXIS Object Analyticsがイベントデータを生成し、環境センサーが空気質、湿度、温度などの環境パラメーターに関するリアルタイムの情報を報告します。カメラとセンサーのデータは集約され、クラウドを経由してAXIS Data Insightsに転送され、直感的なダッシュボードに表示されます。これにより、サイト全体の経時的な運用上の明確な全体把握が得られます。

要件

AXIS Data Insightsにアクセスするには、*My Axis*からAxis My Systemsにアクセスする必要があります。

AXIS Data Insightsは、以下の複数のAxisのアプリケーションおよび製品を使用して分析機能を収集します。

- *AXIS Object Analytics*
- *AXIS D6210 Air Quality Sensor*
- *AXIS D6310 Air Quality Sensor*

AXIS Data Insightsは、複数のデバイスに対応しています。完全なリストは、AXIS Data Insights *対応製品*を参照してください。

製品のライセンス

製品のライセンスを取得するには、*[My Systems]> [Licenses (ライセンス)]* に移動します。Axisの製品とサービスのライセンスの詳細については、*My Systemsユーザーマニュアル*を参照してください。

注

ライセンスの有効期限が切れると、組織は30日間の猶予期間に入り、この期間中はシステムが引き続き動作します。

指定された猶予期間内にライセンス更新が行われなかった場合、組織全体のダッシュボードおよび履歴データへのアクセス権が自動的に取り消されます。30日間の猶予期間内にライセンス更新を行わなかった組織については、履歴データは保持されません。

また、猶予期間が終了すると、接続されたデバイスからの新規データのレポートも自動的に無効になります。すなわち、システムにアクセスするためには、新しいライセンスを有効化し、AXIS Data Insights用にデバイスおよび分析機能を再有効化し、設定し直す必要があります。

ライセンスがない組織がある場合、AXIS Data InsightsおよびAXIS License Managerによって生成される電子メール通知 (オプトインが必要) を通じて、ライセンスの状況が通知されます。

ブラウザーサポート

以下のブラウザーでAXIS Data Insightsを使用できます。

	Chrome™	Edge™	Firefox®	Safari®
Windows®	✓	✓	*	*
macOS®	✓	✓	*	*
Linux®	✓	✓	*	*
その他のオペレーティングシステム	*	*	*	*

✓:推奨

*:制限付きでサポート

システム

タイトルバナー:

	最新情報、ユーザーマニュアル、よくある質問 (FAQ)、システムステータスへのリンクなどの、情報やヘルプに関するオプションが開きます。
	最新の通知や未読の通知を表示します。
	プロファイル設定へのアクセスおよびサインアウトができます。
	組織の設定にアクセスしたり、Axisアプリケーションを切り替えたりできます。

Insights (インサイト)

Insights (インサイト) には、以下の2つのダッシュボードが含まれています。混雑状況の推定および空気質のモニタリング。これらのダッシュボードは、それぞれグローバルレベル、サイトレベル、またはデバイスレベルで表示できます。

各ダッシュボードでは、データの更新間隔の設定やデータのエクスポートもできます。**[Export all (すべてエクスポート)]** をクリックすると、選択した期間のデータがZIP形式のCSVファイルでエクスポートされます。

注

ダッシュボードはデバイスを設定した場合のみ表示されます。たとえば、環境センサーを設定していない場合、大気質の監視のダッシュボードは表示されません。

混雑状況の推定

[Occupancy estimation (混雑状況の推定)] はサイトのエントランスに設置されたカメラからのデータを収集します。カメラは、AXIS Object Analyticsのクロスラインカウントシナリオで作成した、既定の入場ラインおよび退場ラインを横切る物体を検知し、その数をカウントします。詳細については、*AXIS Object Analyticsの設定, on page 17*を参照してください。

システムがすべてのアクセスポイントからのクロスラインカウントデータを集計し、`Current occupancy = total entries - total exits`の式を用いて現在の利用率を推定します。利用率の値は深夜0時に自動的にリセットされます。

注

利用率は、入退場データに基づいて推定されます。録画された退場数が入場数よりも多かった場合、またはカメラの撮影範囲が不完全な場合、利用率はマイナスになることがあります。

グローバルレベルの混雑状況の推定には、以下が含まれます。

組織の概要	組織内の全サイトにおける現在の推定利用率、サイトごとの現在の推定利用率、および各サイトならびに組織全体の総訪問者数。
ロケーション別の平均利用率	指定された期間における各サイトの平均推定利用率。
ロケーション別の総訪問者数	指定された期間における各サイトの総訪問者数。
サイト別の1日の利用率	サイトごとの1日の純利用率の視覚的表示。

グラフィックやビジュアルの上にカーソルを合わせると、詳細情報が表示されます。

サイトレベルの混雑状況の推定の分析には、以下が含まれます。

現場の概要	サイトにおける現在の推定利用率とその日のサイトの入場数と退場数の総数。
サイトの入退場の流動	指定された期間における入退場アクティビティの視覚的表示。
最大利用率	指定された期間における最大利用率の視覚的表示。
エントランスの利用	サイトの各監視対象アクセスポイントにおける入場および退場の件数および割合です。
利用率の推移	指定された期間における平均利用率と最大利用率の比較。
利用率ヒートマップ	グラデーションを使用して可視化した利用率の推移。濃い青は利用率が高いことを示し、薄い青は利用率が低いことを示しています。
エントランスごとの総訪問者数	指定された期間における、各アクセスポイントの総入場者数の視覚的な表示。

グラフィックやビジュアルの上にカーソルを合わせると、詳細情報が表示されます。

デバイスレベルの混雑状況の推定の分析には、以下が含まれます。

デバイスの概要	デバイスのアクセスポイントのトラフィックデータ (月間の総入場者数、総退場者数、平均流動率、および総トラフィックなど)。 `Average flow rate = (total entrances + total exits) / time`
エントランスの入退場の流動	指定された期間における入退場アクティビティの視覚的表示。
ピーク時間帯	平均流動率が最も高い60分を算出します。
実質流動量	`Net flow = total entrances - total exits`。すべてのアクセスポイントの実質流動量を使用して、推定利用率を推定利用人数を計算することができます。

グラフィックやビジュアルの上にカーソルを合わせると、詳細情報が表示されます。

大気質の監視

[Air quality monitoring (大気質の監視)] は、AXIS D6210 Air Quality SensorやAXIS D6310 Air Quality SensorなどのAxisのセンサーから環境パラメーターデータを収集します。データは華氏 (ºF) または摂氏 (ºC) で表示できます。

グローバルレベルの大気質の監視の分析には、以下が含まれます。

組織の概要	組織全体におけるすべての空気質パラメーターのアラームステータス。パラメーターは次のように異なる色で表示されます: • 緑: 最適範囲内、作動中のアラームなし • 赤: 最適範囲外、アラーム作動中
アラーム履歴	指定された期間内に発生した日付、時刻、およびロケーションを含むアラーム履歴。

ロケーション別の喫煙・電子タバコの使用アラーム	指定された期間における各サイトでのアラーム発生件数。
ロケーションごとのアラームの継続時間	各パラメーターのヒートマップは、サイトごとのアラーム継続時間を表します。濃い色はアラーム継続時間が長いことを表し、薄い色はアラーム継続時間が短いことを表します。

グラフィックやビジュアルの上にカーソルを合わせると、詳細情報が表示されます。

サイトレベルの大気質の監視の分析には、以下が含まれます。

現場の概要	サイト全体におけるすべての空気質パラメーターのアラームステータス。パラメーターは次のように異なる色で表示されます: • 緑: 最適範囲内、作動中のアラームなし • 赤: 最適範囲外、アラーム作動中
アラーム履歴	指定された期間内に発生した日付、時刻、およびロケーションを含むアラーム履歴。
デバイス別のアクティブな喫煙・電子タバコの使用のアラーム	指定された期間における各デバイスでトリガーされたアラーム発生件数。
デバイスごとのアラームの継続時間	各パラメーターのヒートマップは、デバイスごとのアラーム継続時間を表します。濃い色はアラーム継続時間が長いことを表し、薄い色はアラーム継続時間が短いことを表します。

グラフィックやビジュアルの上にカーソルを合わせると、詳細情報が表示されます。

デバイスレベルの大気質の監視の分析には、以下が含まれます。

デバイスの概要	サイト全体におけるすべての空気質パラメーターのアラームステータス。パラメーターは次のように異なる色で表示されます: • 緑: 最適範囲内、作動中のアラームなし • 黄: 最適範囲外、作動中のアラームなし • 赤: 最適範囲内、アラーム作動中
センサーごとのアラームの継続時間	パラメーターごとのアラーム継続時間のヒートマップ。濃い色はアラーム継続時間が長いことを表し、薄い色はアラーム継続時間が短いことを表します。
アクティブな喫煙・電子タバコの使用の検知イベント	指定された期間にトリガーされたアラーム発生件数。
空気質指数（AQI）	AQIの経時的な推移の視覚的表示。AQIの区分は以下の通りです。 • 緑: 良好 (50未満)。データは満足のいく水準とみなされます。 • 黄: 中程度 (50～100)。データは許容範囲内です。極めて少数の、特に敏感な人々には、中程度の健康上の懸念が生じる可能性があります。 • オレンジ: 敏感なグループにとって不健康 (100～150)。すべての人が健康への

	影響を感じ始める可能性があります。特に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。 • 赤: 不健康 (>150)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。特に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。
温度	温度の経時的な推移の視覚的表示。温度の区分は以下の通りです: • 青: 低温 (20ºC未満) • 緑: 最適 (20～27ºC) • 黄色：高温 (27～32ºC) • 赤: 高温 (32ºC以上)
湿度	湿度の経時的な推移の視覚的表示。湿度の区分は以下の通りです: • 黄: 乾燥 (30%未満) • 緑: 最適 (30～60%) • オレンジ: 高い (60～70%) • 赤: 非常に高い (70%以上)
ヒューミデックス	ヒューミデックスの経時的な推移の視覚的表示。ヒューミデックスとは、気温と湿度を組み合わせて、体感温度を表す指標です。ヒューミデックスの区分は以下の通りです。 • 緑: 快適 (30 ° C未満)。不快感はほとんどないか全くなく、安全上の問題はありません。 • 黄: 注意 (30～40 ° C)。すべての人が多少の不快感を感じる可能性があり、身体活動を行う際は注意が必要です。 • オレンジ: 警告 (40～45 ° C)。すべての人が強い不快感を感じる可能性があり、激しい運動は避けるべきです。 • 赤: 危険 (45 ° C以上)。危険な条件です。すべての人が熱中症のリスクにさらされる可能性があります。
暑さ指数	暑さ指数の経時的な推移の視覚的表示。暑さ指数とは、気温と湿度を組み合わせて、体感温度を表す指標です。暑さ指数の区分は以下の通りです。 • 緑: 安全 (27 ° C未満)。不快感はほとんどないか全くなく、安全上の問題はありません。 • 黄: 疲労 (27～32 ° C)。長時間の身体活動により、熱けいれんや熱疲労が起こる可能性があります。 • オレンジ: 熱性けいれん (32～39 ° C)。長時間の身体活動により、熱けいれん、熱疲労、熱中症が起こる可能性があります。

	• 赤: 熱中症 (39 °C以上)。長時間の身体活動により、熱けいれんや熱疲労が起こる可能性が高く、熱中症が起こる可能性があります。
二酸化炭素 (CO_2)	CO_2の経時的な推移の視覚的表示。CO_2の区分は以下の通りです。 • 緑: 良好 (1,000 ppm未満）。データは満足のいく水準とみなされます。 • 黄: 普通 (1,000～2,000 ppm)。敏感なグループに属する人々は健康への影響を受ける可能性があります。一般の人々への影響はあまりありません。 • オレンジ: 悪い (2,000～5,000 ppm)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。敏感なグループに属する人は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。 • 赤: 危険 (>5,000 ppm)。緊急事態における健康警告。すべての人が影響を受ける高い可能性があります。
窒素酸化物(NO_x)指数	NO_xの経時的な推移の視覚的表示。NO_xの区分は以下の通りです。 • 緑: 通常 (30未満)。データは満足のいく水準とみなされます。 • 黄: 軽度 (31～150)。データは許容範囲内です。極めて少数の、特に敏感な人々には、中程度の健康上の懸念が生じる可能性があります。 • オレンジ: 中程度 (150～300)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。特に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。 • 赤: 高い (300以上)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。特に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。
粒子状物質 PM1.0	PM1.0の経時的な推移の視覚的表示。PM1.0のレベル区分は以下の通りです。 • 緑: 良好 (10 µg/m^{3}未満)。データは満足のいく水準とみなされます。 • 黄: 中程度 (10～55 µg/m^3)。データは許容範囲内です。極めて少数の、特に敏感な人々には、中程度の健康上の懸念が生じる可能性があります。 • オレンジ: 不健康 (55～225 µg/m^3)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。また、健康に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。

	• 赤: 危険 (225 µg/m³以上)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。また、健康に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。
粒子状物質 PM2.5	PM2.5の経時的な推移の視覚的表示。PM2.5のレベル区分は以下の通りです。 • 緑: 良好 (10 µg/m³未満)。データは満足のいく水準とみなされます。 • 黄: 中程度 (10〜55 µg/m³)。データは許容範囲内です。極めて少数の、特に敏感な人々には、中程度の健康上の懸念が生じる可能性があります。 • オレンジ: 不健康 (55〜225 µg/m³)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。また、健康に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。 • 赤: 危険 (225 µg/m³以上)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。また、健康に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。
粒子状物質 PM4.0	PM4.0の経時的な推移の視覚的表示。PM4.0のレベル区分は以下の通りです。 • 緑: 良好（55 µg/m³未満）。データは満足のいく水準とみなされます。 • 黄: 中程度 (55〜155 µg/m³)。データは許容範囲内です。極めて少数の、特に敏感な人々には、中程度の健康上の懸念が生じる可能性があります。 • オレンジ: 不健康 (155〜255 µg/m³)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。また、健康に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。 • 赤: 危険 (255 µg/m³以上)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。また、健康に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。

粒子状物質 PM10	PM10の経時的な推移の視覚的表示。PM10のレベル区分は以下の通りです。 • 緑: 良好 (55 µg/m^{3}未満)。データは満足のいく水準とみなされます。 • 黄: 中程度 (55～155 µg/m^3)。データは許容範囲内です。極めて少数の、特に敏感な人々には、中程度の健康上の懸念が生じる可能性があります。 • オレンジ: 不健康 (155～255 µg/m^3)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。特に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。 • 赤: 危険 (255 µg/m^{3}以上)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。特に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。
揮発性有機化合物（VOC）指数	VOCの経時的な推移の視覚的表示。VOCのレベル区分は以下の通りです。 • 緑: 良好 (100未満)。データは満足のいくものとみなされます。 • 黄色: 中程度 (100～200)。データは許容範囲内です。極めて少数の、特に敏感な人々には、中程度の健康上の懸念が生じる可能性があります。 • オレンジ: 上昇 (200～300)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。また、特に敏感なグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。 • 赤: 高 (300以上)。すべての人が健康への影響を感じ始める可能性があります。また、感受性の高いグループに属する人々は、より深刻な健康への影響を受ける可能性があります。

グラフィックやビジュアルの上にカーソルを合わせると、詳細情報が表示されます。

設定

設定には、**[Connections (接続)]**、**[API keys (APIキー)]**、**[About (情報)]**の3つのダッシュボードがあります。

接続

[Connections (接続)] では、デバイスや分析機能を管理することができます。

アクティベーション	選択したデバイスでAXIS Data Insightsを有効にします。詳細については、*デバイスでAXIS Data Insightsを有効にする, on page 18*を参照してください。
更新	表にカメラリストとカメラのステータスを再び読み込みます。

ステータスの列には、AXIS Data Insightsに関連するカメラのステータスが表示されます。

ステータス	説明
オンボード	このデバイスが組織に追加されます。これには数分かかることがあります。
オンボードに失敗しました	このデバイスを組織に追加できませんでした。デバイスを一度削除し、組織に再度追加してみてください。
設定中	デバイスの設定中です。これには数分かかることがあります。
有効化が必要です	データをダッシュボードに送信するには、デバイスでAXIS Data Insightsを有効にする必要があります。方法については、*デバイスでAXIS Data Insightsを有効にする, on page 18*を参照してください。
接続なし	デバイスに接続できません。デバイスがインターネットに接続されており、AXIS OS 12.10以降またはAXIS OS LTS 11.11を実行していることを確認してください。
ソフトウェアのアップグレードが必要です	AXIS Data Insightsを実行するには、最新のデバイスソフトウェアをダウンロードしてください。
登録されていません	ACS Proまたは旧型のデバイスである可能性があります。これらのデバイスは、AXIS Data Insightsではサポートされていません。
設定待ち	AXIS Data Insightsは有効になっていますが、データソースがオンになっていません。デバイス名をクリックすると、デバイスのデータソースをオンにしたり編集したりできます。
データ送信中	デバイスがAXIS Data Insightsにデータを送信しています。

APIキー

APIキーを使用して、データを他のダッシュボードツールに統合します。各APIキーについて、以下の操作が可能です。

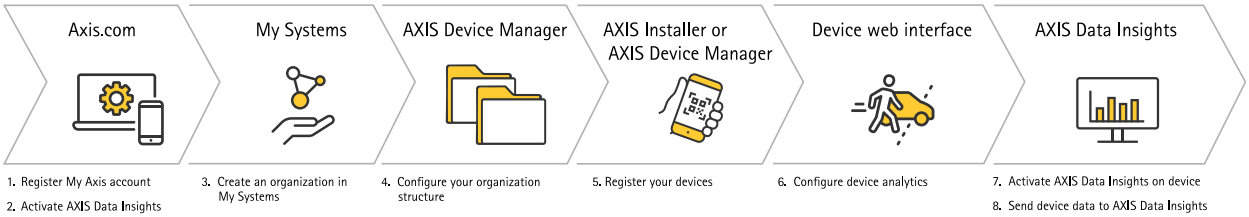
APIキーの生成	AXIS Data InsightsのデータをJSONファイルに転送するためのAPIキーを作成します。詳細については、*APIキーの生成, on page 19*を参照してください。
削除	APIキーを削除します。
ドキュメントを開く	*APIキーを使用してデータを取得する, on page 19*を使用して、クロスラインカウントのデータを他のダッシュボードツールと統合します。

APIキー名の横の ••• を使用してAPIキーの名前を変更します。APIキーIDの横の ••• を使用して、APIキーにコピーします。

バージョン情報

バージョン情報では、サードパーティライセンスやオープンソースアプリケーションを確認できます。

使用に当たって



AXIS Data Insightsを有効にする

My Systemsのダッシュボードにこのアプリケーションを表示するには、AXIS Data Insightsを有効にする必要があります。

AXIS Data Insightsを有効にする:

1. *Axis Data Insights*に移動します。
2. **[Start free trial (無料試用版の開始)]** をクリックします。Axis My Systemsにリダイレクトされます。
3. 以下の手順に従って、AXIS Data Insightsの試用を開始します。

*製品のライセンス, on page 2*に移動して、AXIS Data Insightsの試用およびライセンスに関する詳細を確認してください。

My Systemsで組織を作成する

*My Systems*で作成した組織は、AXIS Data Insightsや*AXIS Device Manager*などの他のAxisアプリケーションで使用できます。

組織について

組織は、Axisクラウドサービス内のすべてのデバイス、ユーザー、およびサイトを仮想的に表したものです。アクセスを規制し、最大限のセキュリティを促進する階層構造内ですべてのデバイスとユーザーアカウントをホストします。この階層構造により、小規模から大規模の企業まで、あらゆる規模の組織において、柔軟なユーザーおよびデバイス管理が可能になります。

組織を作成するには、My Axisアカウントが必要です。My Axisアカウントは*axis.com/my-axis/login*で登録できます。

新しい組織を作成すると、その組織の所有者になります。組織はシステムをAxisクラウドサービスのユーザーに接続します。組織所有者は以下のことができます。

- ユーザーを組織に招待する。*ユーザーを組織に追加する*を参照してください。
- ユーザーにそれぞれのロールを割り当てる。
- ニーズに合わせてニーズに合った組織構造を構築する。組織はフォルダーやサブフォルダーに構造化できます。通常、フォルダーは組織内のシステムの物理的なサイトまたは位置を表します。
- 組織内のシステムのライセンスを管理する。

組織を作成する:

1. My Axisアカウントを使用して*My Systems*にサインインします。
2. セットアップアシスタントの指示に従います。

追加の組織を作成する:

1. 組織名のドロップダウンメニューに移動します。

2. [+ Create new organization (+新しい組織の作成)] を選択します
3. セットアップアシスタントの指示に従います。

組織構造の設定

フォルダーを使用して、組織の構造を管理することができます。AXIS Device Managerから、組織にとって最適な方法でフォルダーを整理することができます。たとえば、建物内の特定の部屋までの地理的なロケーションや、組織内の特定のロールに関連付けられたデバイスに基づいて分けることができます。

AXIS Data Insightsは、組織の構造に基づいてデータを整理し、表示します。そのため、フォルダーの構成の仕方が受け取るデータの可視化や分析に影響します。

AXIS Data Insightsでは、以下の複数のレベルでデータを表示することができます。

- Organization level (組織レベル):ダッシュボードに組織全体のデータが表示されます。
- Site level (サイトレベル):ダッシュボードに特定のサイト (フォルダー) 内のすべてのデバイスからのデータが表示されます。
- Device level (デバイスレベル):ダッシュボードに1台のデバイスからのデータが表示されます。

最初のフォルダーを作成する:

1. [Create site (サイトの作成)] をクリックします。
2. フォルダーの名前を選択します。
3. [Create (作成)] をクリックします。

新しいフォルダーを作成します。

1. フォルダーの横の ••• をクリックし、ドロップダウンメニューにアクセスします。
2. [Create new sibling site (新しい姉妹サイトの作成)] を選択します。
3. フォルダーの名前を選択します。
4. [Create (作成)] をクリックします。

フォルダーを削除する:

1. [Folders (フォルダー)] で、削除するフォルダーの横の ••• をクリックします。
2. ドロップダウンメニューで、[Delete (削除)] を選択します。
3. このアクションは永久的に適用され、取り消すことができないことを確認するチェックボックスにチェックを入れます。
4. [Delete (削除)] をクリックします。

デバイスへのアクセスを管理するには、*デバイスの登録, on page 15*を実施し、AXIS Data InsightsまたはAXIS Device Managerを使用してデバイスを異なるフォルダーに分類します。

注

サブフォルダやデバイスを含むフォルダを削除するには、まずデバイスを削除し、サブフォルダを削除する必要があります。削除したいフォルダーと同期しているオンプレミスのアプリケーション (ACS Proや装着式など) を一時的に切断することをお勧めします。そうでしないと、それらのアプリケーションがすぐに同期しようとするかもしれません (同期に関する情報は、各アプリケーションのユーザーマニュアルに記載されています)。これらの予防措置を講じないと、システムが破損する恐れがあります。この操作が原因の問題は、現時点ではAxisのテクニカルサポートでのみ対応可能です。

デバイスの登録

デバイスからデータ収集を開始するには、まずそのデバイスをオンボードし、AXIS Data Insightsに表示されるように登録する必要があります。AXIS InstallerアプリまたはAXIS Device Managerを使用して、デバイスを登録できます。

注

デバイスの登録を開始する前に、以下を確認してください。

- デバイスがインターネットに接続されている。
- **[Gateway (ゲートウェイ)]** および **[DNS]** のフィールドが入力されている。
- ファイアウォールとルーターが外部への接続を許可している。制限のあるネットワークや企業内ネットワークを使用している場合は、ingress.did.Mysystems.axis.com を含むすべての axis.com ドメインに対して、ポート443の送信トラフィックを許可してください。
- 必要に応じて、デバイスのプロキシー設定が入力されている。
- そのデバイスが、AXIS OS 12.10以降、またはAXIS OS LTS 11.11を実行していること。詳細については、*AXIS OSの管理*を参照してください。

オプション1:AXIS Installerでデバイスを登録する

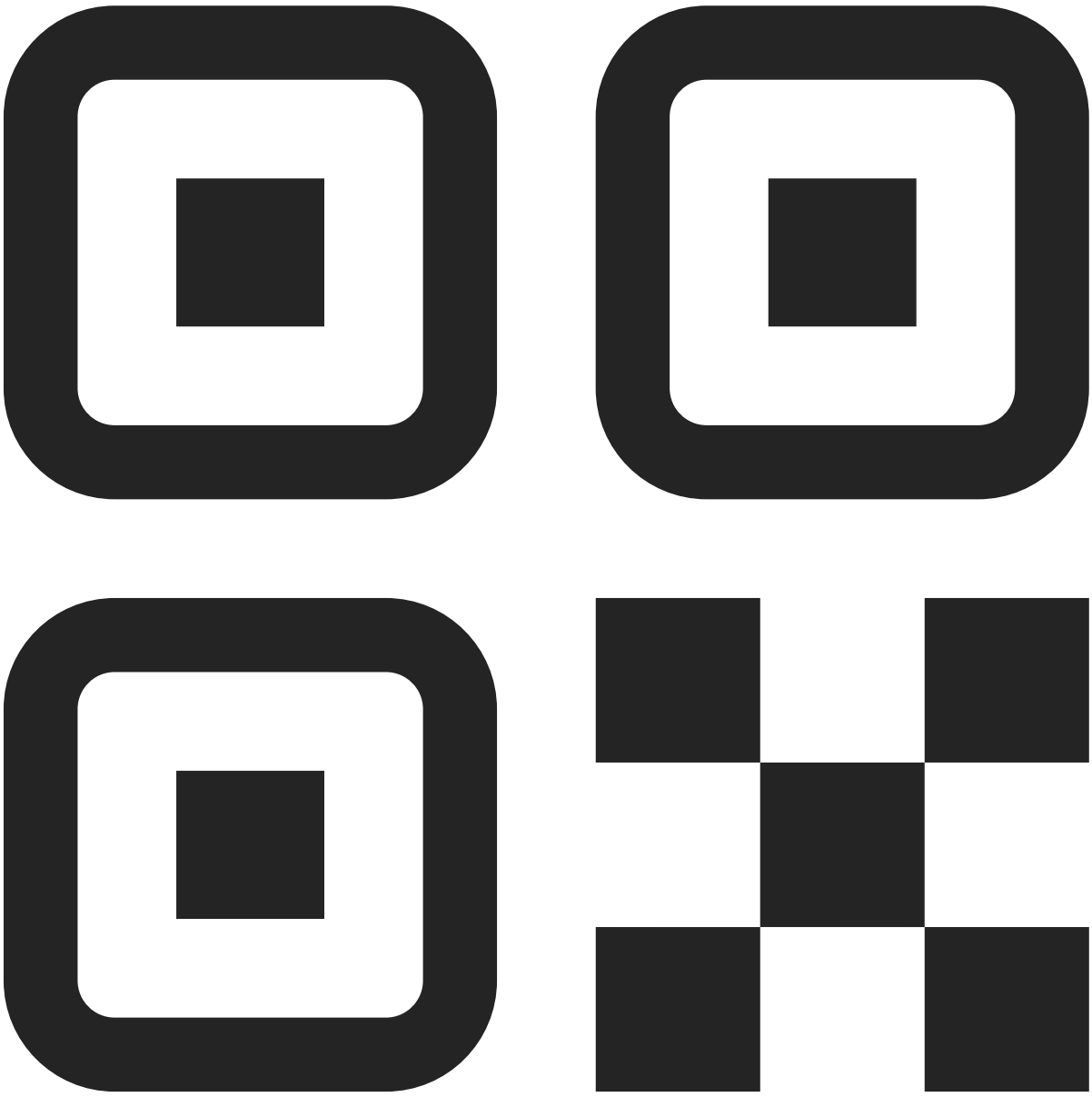
AXIS Installerをインストールする:

AXIS Installerは、AndroidおよびiOSのスマートフォンやタブレットと互換性があります。

1. AXIS Installerは、*Google Play*または*App Store*から入手できます。
2. ダウンロードをクリックします。
3. アプリを開きます。

AXIS Installerでデバイスを登録する

1. AXIS Installerで、**[Connect (接続)]** に移動します。注:**[Connect (接続)]** が表示されない場合は、**[... More (その他)]** > **[Cloud connection (クラウド接続)]** に移動し、クラウド接続をオンにします。
2. My Axisアカウントでサインインします。
3. 所属組織を選択します。
4. デバイスを登録するフォルダーまたはサブフォルダーを選択します。

5. 
[Scan (スキャン)] をクリックします。
6. デバイスのQRコードをスキャンするか、**[Enter device information manually (デバイス情報を手動で入力する)]** を選択します。QRコードをスキャンしたら、手順8に進みます。
7. デバイスのシリアル番号 (S/N) と所有者認証キー (OAK) を入力します。S/Nはデバイスに表示されています。OAKはデバイスに同梱されているドキュメント、またはデバイスのWebインターフェースで確認できます。
8. **[Continue (続行)]** を選択します。
9. プロンプトが表示されたら、デバイスのコントロールボタンを押して、オンボードプロセスを開始します。

注

オンボードプロセスには、5分程度かかる場合があります。`Connecting. This might take a while`と表示され、`Connected to Axis Cloud Connect`と表示されます。

オプション2:AXIS Device Managerでデバイスを登録する

1. *AXIS Device Manager*に移動します。
2. **[All devices (すべてのデバイス)]** をクリックします。
3. サイトのリストで、デバイスを登録するフォルダーを選択します。

4. [Register (登録)] をクリックします。
5. 表示される画面に以下を入力します。
   - デバイスのS/N
   - デバイスのOAK
   - デバイスの名前
6. [Register (登録)] をクリックします。

デバイスで:

1. [System (システム)] > [Network (ネットワーク)] に移動します。
2. [Allow O3C (O3Cの許可)] を [Always (常時)] に設定します。

注

オンボードプロセスには、5分程度かかる場合があります。`Registered`、`Installing...`、`Configuring...`と表示され、`Finished`と表示されます。

デバイスの設定

AXIS Object Analyticsの設定

*AXIS Object Analytics*は、特に人物や車両など、移動する物体を検知、分類、カウントします。クロスラインカウントシナリオを設定すると、AXIS Data InsightsのAXIS Object Analyticsでクロスラインカウントデータを使用することができます。

クロスラインカウントシナリオを作成する:

- デバイスのWebインターフェースにログインするか、AXIS Device Managerからデバイスの Webインターフェースにアクセスします。
- [Analytics (分析)] > [AXIS Object Analytics] をクリックします。
- [開始] をクリックします。
- [Open (開く)] をクリックします。
- クロスラインカウントシナリオを作成するには、[+ New scenario (+新規シナリオ)] をクリックします。
- [Crossline counting (クロスラインカウント)] を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- アプリケーションで検知する物体のタイプを選択します。*Classification of objects (物体の分類)* の詳細を確認します。
- 仮想ラインを調整する:
  - 仮想ラインの形状を変更するには、いずれかのアンカーポイントをクリックしてドラッグします。
  - 仮想ラインを移動するには、クリックしてドラッグします。
  - 移動する物体または検知する物体の方向を変更するには、[Change trigger direction (トリガー方向の変更)] をクリックします。線の横の赤い矢印が現在の方向を示します。矢印の方向に物体がラインを横切ると、アクションがトリガーされます。両方向の移動する物体を監視する場合は、それぞれの方向に個別のシナリオを作成します。
  - 仮想ラインをデフォルトのサイズにリセットするには、[Reset line (ラインをリセット)] をクリックします。
- 設定を確認し、[Finish (完了)] をクリックします。

作成したシナリオの名前または内容を変更するには、[Open (開く)] をクリックします。追加のシナリオを作成するには、[+ New scenario (+新規シナリオ)] をクリックします。

空気質センサーデータの設定

空気質パラメーターは、*AXIS D6210 Air Quality Sensor*および*AXIS D6310 Air Quality Sensor*によって収集されます。

空気質センサーのパラメーターをカスタマイズする

デバイスのWebページで、**[Air quality monitor (空気質モニター)]** > **[Settings (設定)]** の順に移動します。

- 温度、湿度、CO2、NOx、PM1.0、PM2.5、PM4.0、PM10.0、VOC、AQI、ヒューミデックス、暑さ指数の閾値を設定します。*設定*を参照してください。
- ベイピング検出ベイピング検知感度を設定します。*設定*を参照してください。
- ストレージ保持期間を設定します。*ストレージ設定*を参照してください。
- 変数メタデータ更新頻度を設定します。*変数メタデータ*を参照してください。
- 検証期間を設定します。*検証期間*を参照してください。

注

- 完全なCO2精度が得られるまでには、装置の初起動から2日かかります。
- 装置の初起動時には、AQI (空気質指数) が正しく機能するまでに12時間かかります。十分なデータが得られるまで、AQIには**Calculating (計算中)** と表示されます。デバイスが再起動するたびに、キャリブレーション時間が必要です。
- 完全なVOC精度は、デバイスを1時間作動させた後に得られます。デバイスが再起動するたびに、キャリブレーション時間が必要です。
- 完全なNOx精度は、デバイスを6時間作動させた後に得られます。デバイスが再起動するたびに、キャリブレーション時間が必要です。

デバイスでAXIS Data Insightsを有効にする

デバイスの登録が完了したら、デバイスからダッシュボードへデータを送信できるようにするため、AXIS Data Insightsをデバイスで有効にする必要があります。このプロセスは、AXIS Data Insightsで行うことができます。

1. *AXIS Data Insights*に移動します。
2. **[Settings (設定)]** > **[Connections (接続)]** タブに移動します。
3. 登録済みのデバイスには、**[Activation required (有効化が必要です)]** と表示されているはずです。デバイスのステータスに関する詳細については、*接続, on page 10*を参照してください。
4. デバイスを選択し、**[Activate (有効化)]** をクリックします。有効化が完了すると、デバイスのステータスが **[Awaiting setup (設定待ち)]** に更新されます。

AXIS Data Insightsにデバイスデータを送信する

1. *AXIS Data Insights*に移動します。
2. **[Settings (設定)]** > **[Connections (接続)]** に移動します。
3. デバイスのステータスには、**[Awaiting setup (設定待ち)]**と表示されているはずです。デバイスをクリックします。
4. ポップアップ画面で、**[Send data to the dashboard (データをダッシュボードに送信する)]** をオンにします。
5. デバイスで使用する特定のシナリオを選択します。
6. 必要に応じて、各シナリオの設定を調整します。
7. 画面を閉じ、デバイスのステータスが **[Sending data (データ送信中)]** となっていることを確認します。

統合

APIキーの生成

APIキーを使用すると、AXIS Data InsightsのデータをJSONファイルに簡単に転送することができます。その後、そのJSONファイルを他のダッシュボードツールにアップロードして、他の分析機能と組み合わせて使用することができます。

注

新規APIキーを作成できるのは、組織所有者のみです。

APIキーの作成:

1. [Settings (設定)] > [API keys (APIキー)] に移動します。
2. [Generate API key (APIキーの生成)] をクリックします。
3. プロンプトが表示されたら、My Systemsアカウントにログインします。
4. 組織を選択します。
5. [Approve (承認)] をクリックします。

APIキーの名前の変更:

1. APIキー名の横の ••• をクリックします。
2. [Rename (名前の変更)] をクリックします。
3. APIキーの名前を更新します。
4. [確認] をクリックします。

APIキーを使用してデータを取得する

1. [Settings (設定)] > [API keys (APIキー)] に移動します。
2. [Open Documentation (ドキュメントを開く)] をクリックします。
3. [Metrics (メトリクス)] で [Get (取得)] をクリックします。
4. データとして以下のパラメーターを入力します。
   - 開始日時 (`YYYY-MM-DDTHH:MM:SS`または`YYYY-MM-DDTHH:MM:SSZ`の形式)。
   - 終了日時 (`YYYY-MM-DDTHH:MM:SS`または`YYYY-MM-DDTHH:MM:SSZ`の形式)。
   - 集計間隔。
   - 返すデータのタイプ。
5. [Execute (実行)] をクリックします。データが [Responses (応答)] に表示されます。
6. データをダウンロードするには、[Download (ダウンロード)] をクリックします。

詳細情報

その他のマニュアル

関連の製品やデバイスに関する詳細については、以下を参照してください。

- *AXIS Object Analyticsユーザーマニュアル*
- *AXIS D6210 Air Quality Sensorユーザーマニュアル*
- *AXIS D6310 Air Quality Sensorユーザーマニュアル*

トラブルシューティング

デバイスがAXIS Data Insightsに接続されていない	
デバイスがインターネットに接続されていないため	AXIS Data Insightsにデータを送信するには、デバイスがインターネットに接続されている必要があります。接続の問題を解決するには、こちらのガイドに従ってください。
デバイスが登録されていないため	データを送信するには、デバイスを所属組織に登録する必要があります。AXIS InstallerまたはAXIS Device Managerを使用して、*デバイスの登録, on page 15*方法を確認してください。
デバイスのソフトウェアが古いため	AXIS Data Insightsに対応するには、お使いのデバイスが AXIS 12.10 以降、または AXIS OS LTS 11.11 を実行している必要があります。*AXIS OS管理*でソフトウェアのアップグレード方法および自動アップグレードの設定方法を確認してください。

デバイスがAXIS Data Insightsにデータを送信しない	
AXIS Object Analyticsが設定されていないか、有効化されていないため	AXIS Data Insightsにデータを送信するには、クロスラインカウントのシナリオの *AXIS Object Analyticsの設定, on page 17*を行う必要があります。クロスラインカウントのシナリオを設定したら、*AXIS Data Insightsにデバイスデータを送信する, on page 18*を行い、各シナリオを有効にする必要もあります。
デバイスが誤ったシナリオを使用しているため	AXIS Data Insightsでは、クロスラインカウントデータのみを収集することができます。シナリオがライン横断などの別のデータ収集方法を使用している場合、データはAXIS Data Insightsに送信されません。
デバイスでAXIS Data Insightsが有効化されていないため	*デバイスでAXIS Data Insightsを有効にする, on page 18*を行うと、Axis Data Aggregator ACAPがインストールされます。デバイスがダッシュボードにデータを送信するには、この手順を完了する必要があります。
デバイスへのAxis Data Aggregator ACAPの自動インストールに失敗したため	デバイスにAxis Data Aggregator ACAPをインストールする際にエラーが発生した場合、デバイスの登録は失敗します。デバイスを組織から削除し、もう一度登録手続きを行ってください。

環境センサーのデータが表示されない	
デバイスがデータを収集しているため	• 完全なCO_2精度を得るには、デバイスの初回作動時には2日間が必要です。 • デバイスの初回作動時は、AQIが正しく機能するまでに12時間かかります。十分なデータが得られるまで、AQIに`Calculating`と表示されます。デバイスが再起動するたびに、キャリブレーション時間が必要です。 • 完全なVOC精度は、デバイスを1時間作動させた後に得られます。デバイスが再起動するたびに、キャリブレーション時間が必要です。 • 完全なNOx精度は、デバイスを6時間作動させた後に得られます。デバイスが再起動するたびに、キャリブレーション時間が必要です。

技術サポート

AXIS Data Insightsのライセンスバージョンをお持ちのお客様は、技術サポートをご利用いただけます。技術サポートに連絡するには、*axis.com/support* にアクセスします。技術サポートにシステムレポートとスクリーンショットを送付されることをお勧めします。

サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティは、リスクを最小限に抑えながら、健全な製品ライフサイクルを支援します。当社のサイバーセキュリティへの取り組みに関する詳細な情報や資料は、*axis.com/about-axis/cybersecurity* でご覧いただけます。以下のサイバーセキュリティガイドラインに従ってAxisからの製品に関するセキュリティ通知を受け取り、製品の安全なライフサイクルおよび運用停止のための設定を行ってください。

*Axis Trust Center*では、Axisが実施するセキュリティコンプライアンス、透明性、データ保護、およびプライバシーについての情報をご覧いただけます。

脆弱性の管理

Axisは、*共通脆弱性識別子 (CVE) 採番機関 (CNA)*です。当社は、セキュリティリスクを最小限に抑えるため、当社のデバイス、ソフトウェア、およびサービスの脆弱性の特定と修正において業界標準に従って対応しています。当社の脆弱性管理ポリシーに関する詳細や、脆弱性の報告については、*axis.com/vulnerability-management*を参照してください。

セキュリティ通知

axis.com/security-notification-service から、Axisのセキュリティ通知電子メールを購読してください。お使いのAxis製品に関する脆弱性、関連するセキュリティアドバイザリ、およびその他のセキュリティ関連事項について情報をお送りします。

安全な製品ライフサイクル管理

Axisは、安全なライフサイクル管理を通じて、製品のライフサイクル全体でリスクを最小限に抑えています。*help.axis.com*に掲載されているハードニングガイドには、Axis製品のより安全な設定と操作に関する情報、および以下の情報が含まれています。

安全な初回使用 - Axis製品は、高度な保護機能がデフォルトで組み込まれているため、初回使用時から安全な初期化と暗号化された通信が可能です。

使用目的とよくある設定ミス - 当社のガイドには、Axis製品の使用目的について記載されています。これには、避けるべきよくあるセキュリティ関連の誤った使用や設定ミスについても含まれています。

脆弱性の管理とサプライチェーンの透明性 - 脆弱性の開示およびサプライチェーンの透明性向上を目的として、ソフトウェアのリリースごとに、*axis.com*でソフトウェア部品表 (SBOM) を公開しています。

利用停止とデータの安全な消去 - 製品のライフサイクル終了時に安全に利用を停止するために、工場出荷時の設定にリセットしてください。これにより、設定、保存されたデータ、およびセンシティブな情報が消去されます。

T10239573_ja

2026-09 (M10.2)

© 2026 Axis Communications AB